

都市構造可視化ツールを 活用した分析



北海道 釧路市 都市計画課

i-都市交流会議2022

1

1.はじめに

【釧路市の概要】

あらまし：釧路市は、北海道東部、太平洋岸に位置し、「釧路湿原」「阿寒摩周」の2つの国立公園をはじめとする雄大な自然に恵まれた街であり、東北海道の中核・拠点都市として社会、経済文化の中心的な機能を担っている。

人口：165,077人（北海道第6位）※令和2年国勢調査より

面積：1,363.29平方km（全国第8位）※令和3年全国都道府県市区町村別面積調より

主な産業：水産業など



出典：釧路市HP

i-都市交流会議2022

2

2. 課題①居住密度の低下

以前は釧路市の中心部に職住一体の市街地が形成していたが、昭和後期以降に郊外部にて宅地開発が進み、市街地が拡散し、人口が減少している点も人口密度の低下が懸案事項となっている。

【夜間人口分布の経年変化】

〈1970年ごろの夜間人口〉



〈2015年ごろの夜間人口〉



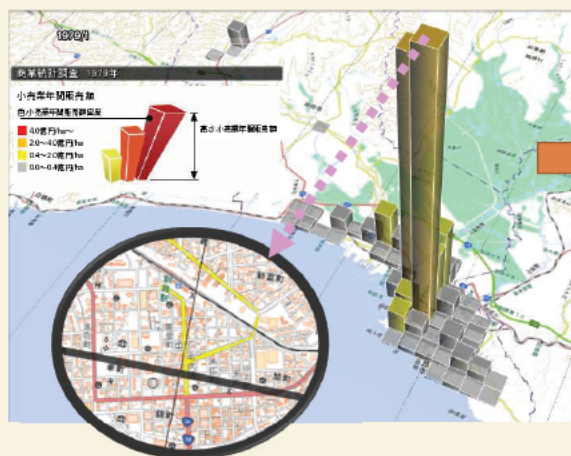
補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

3. 課題②都市機能の拡散

現在、行政・金融・交通機能等の集積する釧路市の中心部の販売額は大きく下落し、代わりに宅地開発に伴い形成された新たな商業地が販売額を伸ばしたことで、都市機能の拡散が起き、以前までの中心市街地の魅力が低下している。

【販売額の経年変化】

〈1979年の小売業年間販売額〉



〈2014年の小売業年間販売額〉



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

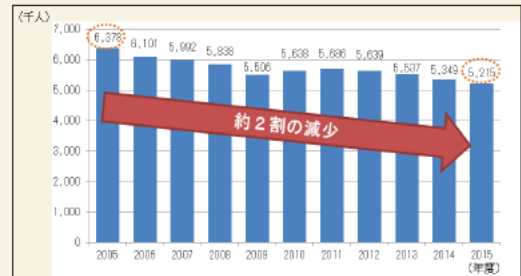
4. 課題③交通手段の変化

釧路市の現状として、市内を運行するバスの利用者は、2005（平成17）年度から2015（平成27）年度にかけて、約2割減少している。

また、移動手段の割合を示す交通手段分担率については、自動車全体が全体の71.4%と大部分を占め、主要な公共交通であるバスは4.0%にとどまる。

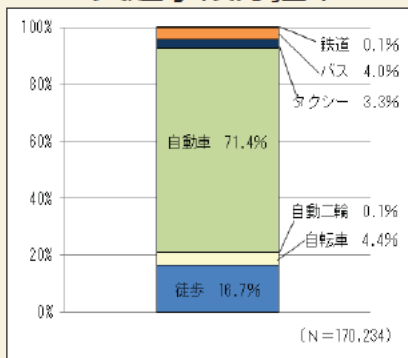
通勤通学に公共交通を利用する市民は少なく、路線バスの利用者数も年々減少を続けるなど、自動車に依存依存する市民の生活実態を表している。

・市内バス交通の利用者数



出典：釧路市

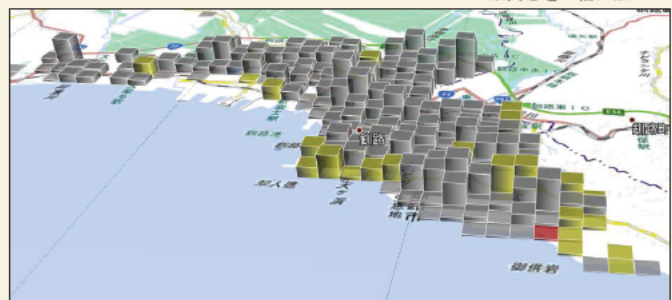
・交通手段分担率



出典：釧路市

・通勤通学に公共交通を使う人の割合

※高さを3倍に加工



補注：都市構造可視化計画、地理院地図を使用

5. 課題解決のための施策①

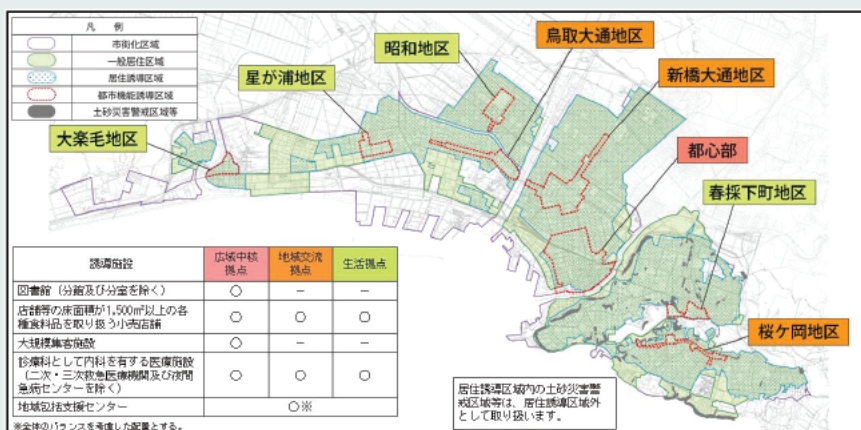
【釧路市立地適正化計画の策定（平成29年3月）】

釧路市を取り巻く諸課題に対応するため、平成29年3月に釧路市立地適正化計画を策定。

本計画では、人口が減少しても一定の人口密度を保つことを目指し、**「居住誘導区域」**と8つの**「都市機能誘導区域」**をそれぞれ定め、各種行政計画・施策との連携や誘導施策を行うことにより、コンパクトなまちづくりを具体的に進める。

誘導区域及び誘導施設図

出典：釧路市



都市機能誘導区域：8箇所

誘導施設：5施設

居住誘導区域面積：3,123ha

都市機能誘導区域面積：498ha

目標値：

居住誘導区域内の人口密度

【48.8人/ha(現況値)

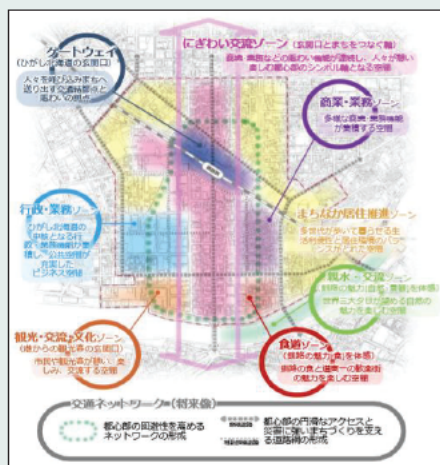
→40.0人/ha(2035年)】ほか

6.課題解決のための施策②

【関連する計画について】

①釧路都心部まちづくり計画

釧路市の顔である都心部（釧路駅周辺）の将来の望ましい姿などを示す「基本構想編」を平成31年3月に策定し、基礎構想編で示す都心部の将来像を目指す「事業構想編」を令和3年3月に策定。



出典：釧路市

②釧路市地域公共交通網形成計画、釧路市地域公共交通再編実施計画

持続可能な公共交通網の形成を目的として、釧路市地域公共交通網形成計画を平成29年6月に策定。また、令和元年10月に再編を実施。



出典：北海道運輸局

北海道 釧路市

幣舞橋からの夕日



阿寒湖のマリモ



阿寒湖畔



どんぱく花火大会